

「私とオリンピック」

—リオ五輪の「光」と「闇」—

阿部 正明

1. はじめに

リオ五輪が閉幕しました。日本は金メダル 12 個、銀メダル 8 個、銅メダル 21 個の計 41 個とこれまでで最多のメダルを獲得しました。ちなみに金メダルは第 18 回東京、第 28 回アテネの 16 個、第 20 回のミュンヘンの 13 個に次ぐ大健闘? をみせました。「私とオリンピック」というお題ですが、私と五輪の関係ではなく(世代的に札幌五輪は若すぎますし……(汗。)、本大会の記録の意味も含めて、まだ記憶に新しいリオ五輪の「光」と「闇」についてコメントを残しておきたいと思います。

表-1 日本のメダル獲得数【夏季五輪】

回	開催国	年	メダル		
			金	銀	銅
第 1 回	アテネ【ギリシャ】	1896 年	不参加		
第 2 回	パリ【フランス】	1900 年	不参加		
第 3 回	セントルイス【アメリカ】	1904 年	不参加		
第 4 回	ロンドン【イギリス】	1908 年	不参加		
第 5 回	ストックホルム【スウェーデン】	1912 年	0	0	0
第 6 回	ベルリン【ドイツ】	1916 年	中止		
第 7 回	アントワープ【ベルギー】	1920 年	0	2	0
第 8 回	パリ【フランス】	1924 年	0	0	1
第 9 回	アムステルダム【オランダ】	1928 年	2	2	1
第 10 回	ロサンゼルス【アメリカ】	1932 年	7	7	4
第 11 回	ベルリン【ドイツ】	1936 年	6	4	8
第 12 回	ヘルシンキ【フィンランド】	1940 年	中止		
第 13 回	ロンドン【イギリス】	1944 年	中止		
第 14 回	ロンドン【イギリス】	1948 年	不参加		
第 15 回	ヘルシンキ【フィンランド】	1952 年	1	6	2
第 16 回	メルボルン【オーストラリア】	1956 年	4	10	5
第 17 回	ローマ【イタリア】	1960 年	4	7	7
第 18 回	東京【日本】	1964 年	16	5	8
第 19 回	メキシコシティ【メキシコ】	1968 年	11	7	7
第 20 回	ミュンヘン【西ドイツ】	1972 年	13	8	8
第 21 回	モントリオール【カナダ】	1976 年	9	6	10
第 22 回	モスクワ【ソ連】	1980 年	不参加		
第 23 回	ロサンゼルス【アメリカ】	1984 年	10	8	14
第 24 回	ソウル【韓国】	1988 年	4	3	7
第 25 回	バルセロナ【スペイン】	1992 年	3	8	11
第 26 回	アトランタ【アメリカ】	1996 年	3	6	5
第 27 回	シドニー【オーストラリア】	2000 年	5	8	5
第 28 回	アテネ【ギリシャ】	2004 年	16	9	12
第 29 回	北京【中国】	2008 年	9	6	10
第 30 回	ロンドン【イギリス】	2012 年	7	14	17
第 31 回	リオデジャネイロ【ブラジル】	2016 年	12	8	21
合計メダル獲得数			142	134	163

2. リオ五輪の「闇」

「闇」については、やはりロシア政府の国家ぐるみのドーピング問題でしょう。2016 年 7 月 18 日に、世界反ドーピング機関(WADA)の調査チームが「マクラーレン報告書」を公表し、ロシアが国家主導で 2011 年から 2015 年 8 月の間にドーピング隠しを行っていたことを明らかにしました。2014 年のソチ五輪でも検査所で尿検体をすり替えていたことが判明しました。その手口は次のとおりです。メダル獲得が期待される選手は薬物をしばらく使わず、五輪前にきれいな尿を採取し、ソチの検査所近くのロシア連邦保安庁(FSB)の建物にある冷凍庫に保管。ソチの検査所に FSB の人物を待機させ、深夜に検査所の部屋の壁に開けた通称「ネズミ穴」から、採取した検体を保管していたきれいな検体にすり替えるという手法でした。WADA は、IOC に対し、ロシアの全選手をリオ五輪から締め出すことを提案しましたが、IOC は過去に違反歴がないなどの条件を設けた上で、国際競技団体から推薦された選手を審査委員会が 1 人ずつ確認し、最終的に 271 選手の出場を認めた。という腑に落ちない結末でした。

RT というロシアのニュース専門局(実質国営メディア)がありますが、この RT のサイトに、シドニー・ブルメンソールとヒラリー・クリントンの機密情報のやりとりメールがストックされていて、ロシア政府が IOC と「RT のキャッシュのヒラリーメールを消す代わりにロシアの選手団をリオ五輪に出場させてほしい」と取引して、ロシア選手ほぼ全員が、ドーピング違反の団体責任で出場できなくなることを、すんでのところで回避したという噂もあります(結局トランプでしたが)。いずれにしても深い闇につつまれた、きな臭い出来事でした。

3. リオ五輪の「光」

次に「光」について2つの出来事を紹介したいと思います。1つ目は8月16日に行われた陸上女子5000メートルでの出来事です。このレースでニュージーランドのニッキー・ハンブリン選手が転倒し、その後ろに続いていたアメリカのアビー・ダゴスティノ選手も共に倒れました。先に立ち上がったダゴスティノ選手は、そのまま走り続けずに、ライバルであるハンブリン選手を励まし、ハンブリン選手は起き上がり、ダゴスティノ選手は最下位でゴール、ハンブリン選手は最下位から2番目でゴールしました。転倒した時のことを、ハンブリン選手はこう振り返っています。「転んだ時『何が起こったの、どうして私は地面の上にいるの?』と思いました。そして突然、肩に手がかけられたのです。そして『起きて、起きて、ゴールしなくちゃ』と励ます声が聞こえました。アビーに本当に感謝しています。彼女こそ、五輪精神の持ち主です。しかも、私たちは初めて出会ったのです。素晴らしい人です。」と。



写真-1 ハンブリン選手とダゴスティノ選手

2つ目は、8月19日に行われた男子50キロ競歩決勝での出来事です。荒井選手は3位でフィニッシュしましたが、ラスト1周のところで、カナダのエバン・ダンフィー選手を抜き去る際に接触しました。これがひじを故意にぶつけたと見なされ、一時失格となりましたが、日本側が国際陸連にすぐには訴えを行い、結果的に荒井選手は銅メダルを奪還し、ダンフィー選手は4位に繰り下がりました。ダンフィー選手はさぞかし不服かと思いきや、カナダ陸連のホームページを通し、次のようなコメントを残しました。「お互いぶつかることは競歩ではよくあること。競技の一部だと思っています。これ以

上、スポーツ仲裁裁判所に上訴するつもりはありません。」、さらに、「たとえ抗議が成功しても、そのメダルを誇りには思えない。」「今夜はぐっすりと眠れそう。正しい選択をした。」と。

選手がメダルをかけて競い合う姿は純粹に素晴らしい！勝負を超えて互いに助け合い、尊敬し合う姿はそれにも増して素晴らしい！！「オリンピック、サイコー（ファイターズ矢野風）！！！」



写真-2 荒井選手とダンフィー選手が接触した映像

4. おわりに

紹介した「光」と「闇」を通じて、気づかされることがあります。それは「選手に罪はない」ということです。ロシア選手の告発の中で、「ドーピングは日常の調整の一部で、他に選択肢はなかった。」との報告もあります。紹介した2つの美談の主人公がロシア選手であったとしても、少しも不思議ではないと思うのは私だけでしょうか？国家や組織による五輪マネーをめぐる醜い駆け引きはこれからも続くでしょう。しかし、それと同時にオリンピックによる五輪精神も未来永劫続くことと確信しています。国家間紛争やドーピングにより、五輪に出場することを目指している選手の出場機会を妨げることは避けてほしいものです。リオ五輪に出場した選手・大会スタッフの皆様一言「感動をありがとう!」、五輪マネーに群がる蛆虫達一言「猛省しなさい!」。

阿部 正明 (あべ まさあき)

技術士(建設/総合技術監理部門)

一般社団法人北海道開発技術センター

